

医療的ケアに不安

教育
児
障
害
来
児
構
障
児
来
児
構

県議会が 関係団体課題を指摘

県議会文教警察常任委員会は十三日、「障害の有無によらず、すべての子どもが地域の小中学校で学ぶ教育」を基本理念とする県教委の県障害児教育将来構想について、県議会で障害者団体の関係者に意見を求めた。障害の状態によって今まで通り養護学校も選択できる制度にしてほしいとの要望があった。

が名取養護学校に通う「県重症心身障害児(者)を守る会」の根本純子理事。根本さんは将来構想について「基本理念は素晴らしい」と評価する一方、「医療的ケアが必要な障害児もいる。看護師の配置など、普通学校で障害の程度に応じた対

応を十分してもらえないか不安だ」と課題を指摘した。将来構想の推進を求める立場として、NPO法人「障害(しょうがい)児と共に歩む会」(石巻市)の小林厚子副理事長も意見を述べ、「障害児が将来、地域で生活する

ことを考えれば、地元の小中学校で学ぶことが大切」と主張した。県教委は構想に基づき、計十九の公立小中学校に補助教師や介助員を配置するなどし、障害児が普通学級で学ぶモデル事業を四月から展開している。